

記者発表資料

提供年月日： 平成 30 年（2018 年） 7 月 3 日
部局名： 琵琶湖環境部
所属名： 琵琶湖政策課
係名： 水質・生態系係
担当者名： 田仲、奥田
電話： 077-528-3463（内線 3463）
E-mail： dk00@pref.shiga.lg.jp

平成29年度琵琶湖水質調査結果について

昭和54年度より、国土交通省、独立行政法人水資源機構、滋賀県が共同で実施している琵琶湖の水質調査結果についてお知らせします。

○ 概要

- ・ 平成29年度は、夏場の植物プランクトン（スタウラストルム）の増加や、台風による濁りの増加等の影響により、北湖・南湖とも透明度が低かった。
- ・ 全窒素や全りん等は経年的には引き続き改善傾向が見られる。

琵琶湖の水質調査地点

昭和54年度より、国土交通省、水資源機構、滋賀県が共同で琵琶湖の水質調査を実施。



	調査実施機関
○	国土交通省
△	水資源機構
◎ ● ■	滋賀県

琵琶湖の水質調査の様子



分析



採水

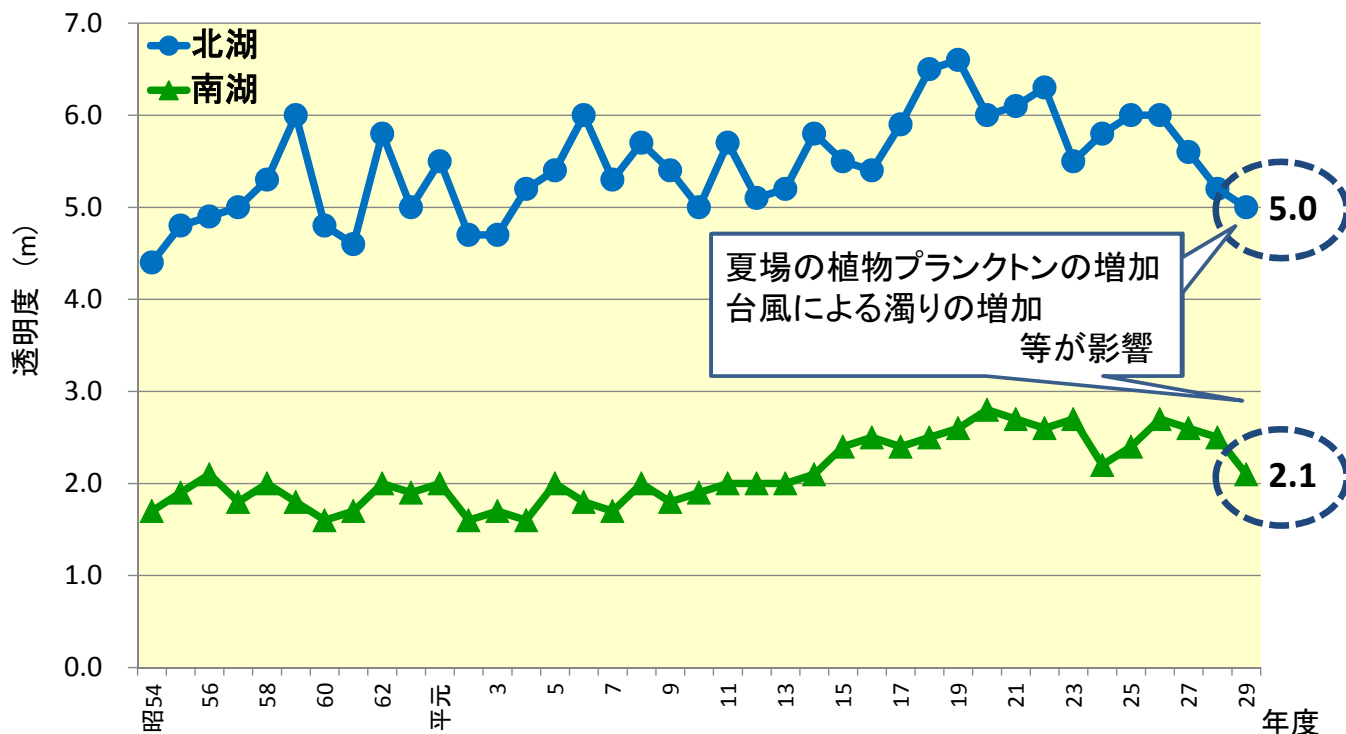


透明度測定



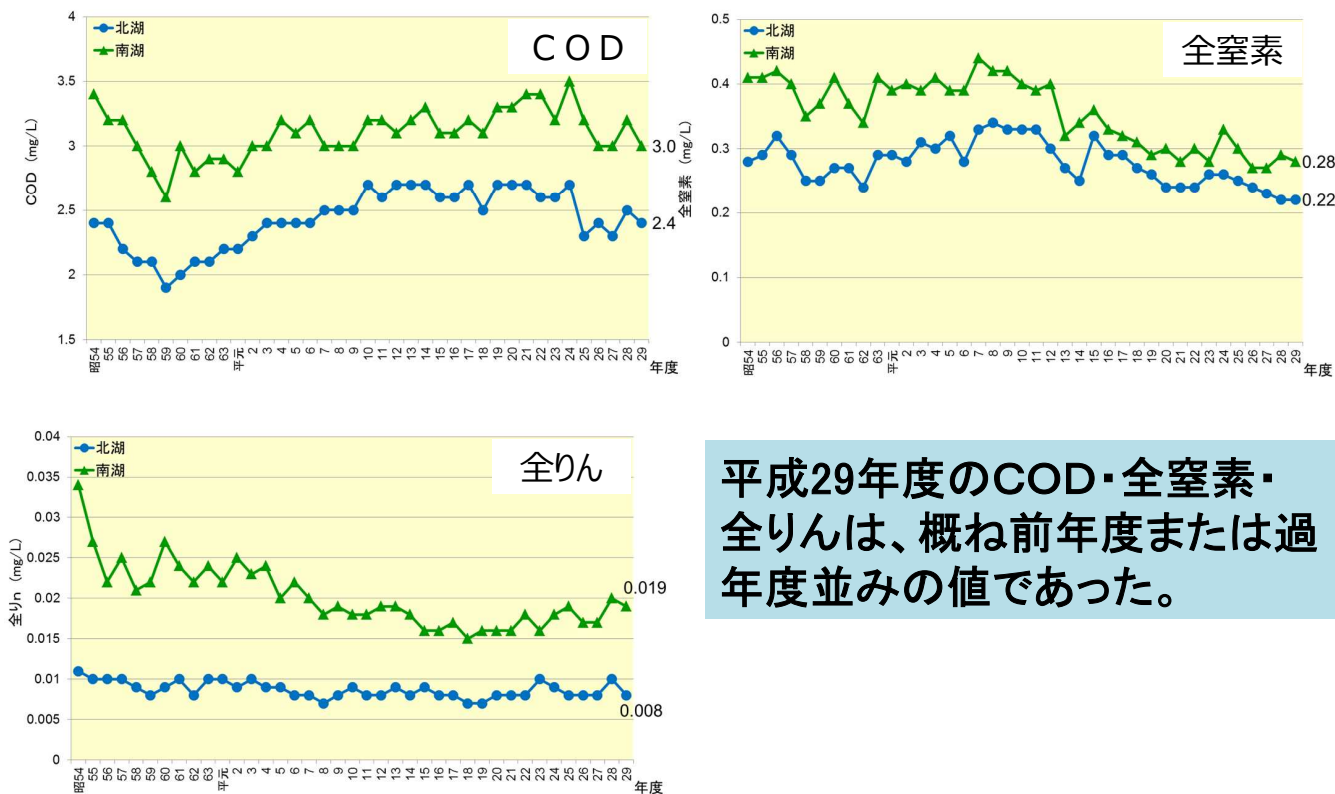
透明度の経年変化

平成29年度の透明度は、北湖・南湖ともに過年度より低かった。



データ: 国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所、水資源機構、滋賀県
※北湖28地点、南湖19地点の平均値

COD・全窒素・全りん



平成29年度のCOD・全窒素・全りんは、概ね前年度または過年度並みの値であった。

データ: 国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所、水資源機構、滋賀県
※北湖28地点、南湖19地点の平均値

今後の取組

琵琶湖の水質は、全窒素や全りん等は経年的には改善傾向が見られる。

一方で、植物プランクトンの種組成の変化、水草の大量繁茂、侵略的外来水生植物の生育面積の拡大、在来魚介類の減少など、生態系の課題が顕在化している。



生態系保全も視野に入れた水質管理が必要



良好な水質と多様で豊かな生態系が両立する琵琶湖の環境の実現に向け、引き続き水質変動や植物プランクトンの発生状況を注視するとともに、新たな水質管理指標(TOC等)の導入に向けた研究を進める。